

平成 30 年 度

平成 30 年 1 月 21 日 実施

# 入 学 試 験 問 題

(看護学科 3 年課程)

## 国 語 総 合

◎指示があるまで開いてはいけません

### 注 意

- 1 解答用紙には、受験番号・志望校名が印刷されているので、あなたの解答用紙かどうかを確認すること。  
なお、氏名欄、志望校名欄には、氏名、志望校名を漢字で正確に記入すること。
- 2 この問題は、表紙を除いて 1 ページから 14 ページまでであるので確かめること。
- 3 試験の時間は、9 時 00 分から 9 時 45 分までの 45 分とする。
- 4 解答には、**B 又は HB の鉛筆**を使うこと。(シャープペンシルは不可)
- 5 問題は、5 肢択一式により出題されている。解答方法は、次のとおりとする。
  - (1) 5 肢択一式問題の正解は、各問題とも 1 つである。解答用紙の所定のマーク欄に、正解の番号を 1 つだけマークすること。2 つ以上マークされている場合は無得点とする。
  - (2) 解答用紙の〔記入上の注意〕をよく読んでマークすること。

例 〔問 1〕日本の首都は次のうちどれか。

- ① 京都    ② 福岡    ③ 東京    ④ 大阪    ⑤ 神戸

正解は「③ 東京」であるから解答用紙のその問題番号の次にならんでいる  
マーク欄 ① ② ③ ④ ⑤ の中の ③ を鉛筆で ● のように  
マークして ① ② ● ④ ⑤ とすればよい。



(良い) のようにマークする。  
(悪い) のようだと機械で読み取れない  
ことがある。

既にマークした解答を消す場合は、プラスチック消しゴムでよく消すこと。



## 国語総合

□ 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

万物が流転する<sup>①</sup>ように、ことばも変転し続ける。ことばが変化しなくなるのは、そのことばを使う人がいなくなつたときである。□ A、ことばの変化とは、その言語が生きている証拠なのであり、止めることができない。

「間違つたことばもみんなが使うようになれば正しいことばになる」という人がいる。

これが真実の一面を言い表しているとしても、正誤が使用率で決まるとは考えていない人も多い。□ B、古い使い方が正しく、新しいものは誤りか俗っぽいものに過ぎないと考えればいいのだろうか。確かに、「これは昔からある伝統的なものだ」というと権威があることはわかるが、権威があれば正解になるのなら、使用率は関係ないことになる。□ C、

「おどろく」は、古代日本語では「目覚める」という意味で、一部の方言ではその意味が残存しているが、「私は今朝五時におどろきました」と起床時間を伝えるのが現代の標準日本語で正しいとは誰も思わないだろう。「正しい」か「誤り」かを判断するのは難しいのである。

「<sup>ぶぜん</sup>無然とした表情」が「不機嫌な表情」のように誤解されている状況は、最近よく取り上げられるが、実はついぶん前から始まっている。二十世紀前半には誤用が始まり、ここ数十年の間に徐々に誤用が増えていったと考えられる。文化庁の調査によると、現在では四人に三人が「<sup>ぶぜん</sup>無然」＝「不機嫌」と解釈しており、この勢いなら近いうちに本来の「<sup>ぼうぜん</sup>呆然」として表情を失つたさま」というものとの意味で使う人は五人に一人以下になってしまうだろう。

この事実は見方を変えれば「<sup>ぶぜん</sup>無然」が「表情を失うさま」から「不機嫌」へと意味が変化しつつあり、□ D、その変化は完了に近づいている、ということである。しかし、一旦立ち止まって冷静に考えてみれば、勢力を拡大しつつある多数派が「誤用して」おり、どんどん縮小している圧倒的少数派が「正しい」ということになるのなら、「誤用」とはいつたい何かと□ X。

「<sup>ぶぜん</sup>無然」は本来の意味が明確にわかっている人が少数ながら一定数存在しており、「不機嫌な」の意味の使用は誤っていると判断する人がいる以上、これは「誤り」と見なさざるを得ないという状況である。しかし、誤りと判断する人が減って、ついにはいなくなつてしまえば、誤用とみなされていたものは許容され、「新しい意味」として扱われることになる。

国語辞典の記述は、全体に慎重な姿勢をとるものであるが、それでも、大多数が誤りと判断しなくなれば、徐々に意味に加えられるいく。最近は、ことばの変化について客観的な情報載せる辞書も見られる。例えば、「<sup>ぶぜん</sup>無然」であれば本来の意味を記したあとに、「近

年、不機嫌の意で使う人が多くなっている」などと注記するのである。これは新しい意味を追認していると言えないが、追認する準備をしているとは言えるだろう。もちろん、誤用の指摘を受け止めて、自分の知識を修正する人もいるから、どう変化していくかは簡単に予測できないが、近い将来は、「正しい意味」が「古い意味」に格上げされ、「新しい意味」が「間違い」から「正しいと認められた意味」に格上げされることも十分あり得る。E、すでに「惘然」の先を行っていることばもある。「精悍」である。

「精悍」というと、「精悍な顔つき」のように現在では見かけや容姿の描写に使うのが一般的である。しかし、「精悍」はもともと、「精」が「鋭い」、「悍」が「強い」の意であることから、「鋭くて強い」という気性や性格に関する意味であった。現代で言えば、「頭の回転がよくて、攻撃的でぶれない」といったところだろうか。それが、伶俐で強い意志を持つ人の表情や顔つきへと意味が拡張していったのである。辞書の中には「ひきしまっていて、鋭い目つきの顔」などと踏み込んで書いているものもある。

意味が変わるときは、本来の意味に加えてもう一つの意味が派生するように生じて、意味の重点が新しいほうに移り、本来の意味が後退して最終的に消えれば、意味変化が完了したことになる。しかし、もとの意味も残り、単に意味が増えて、拡張した状態のままであることも珍しくない。「惘然」の「惘」も、「精悍」の「悍」も、他に使うことはあまりないため、本来の意味を保持するブレーキがかかりにくいわけである。

「精悍」はほぼ変化が完了した状況にある。今「あの人の顔つきは精悍だ」と言ったときに、「精悍とは表情そのものことではなく、本質的な属性を形容することばなので、その使い方は間違いです。どうしても言いたければ、精悍そうだ、とでも言うてください」とおしかりを受けることはほとんどないだろう。変化していると思えば抵抗したくなるが、変化が意識されなくなれば、抵抗もされなくなるのである。

(出典 加藤重広『日本人も悩む日本語 ことばの誤用はなぜ生まれるのか?』より)

〔問1〕

万物が<sup>〔1〕</sup>流転する、とあるが、「万」「流」が同じ読み方(音)の組み合わせとして最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 風邪は万病の元・扇状地の伏流水
- ② 万雷の拍手を浴びる・流麗な調べ
- ③ 万難を排しておこなう・流言飛語
- ④ 巨万の富を残す・民間に流布する
- ⑤ 万障繰り合わせのうえ・流浪の民

〔問2〕

空欄 A、B、C、D、E に当てはまる言葉として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① A つまり B では C 例えば D しかも E そして
- ② A つまり B では C ところで D しかし E そして
- ③ A つまり B なぜなら C ところで D しかし E つまり
- ④ A しかし B では C 例えば D しかも E つまり
- ⑤ A しかし B なぜなら C ところで D しかし E つまり

〔問3〕

文化庁の調査<sup>〔2〕</sup>とあるが、同調査(国語に関する世論調査)で対象となった以下の『 』内のことわざ・慣用句・故事成語のうち、「本来の意味」を示したものとして最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 『枯れ木も山のにぎわい』 人が集まればにぎやかになる。
- ② 『気が置けない』 相手に対して気配りや遠慮をしなくてはならない。
- ③ 『他山の石』 他人の誤った言行も自分の行いの参考となる。
- ④ 『手をこまねく』 準備して待ち構える。
- ⑤ 『情けは人のためならず』 人に情けを掛けて助けてやることは、結局はその人のためにならない。

〔問4〕

空欄

X

に入る文として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 眉をひそめたくなくなってくる
- ② 目をつぶりたくなくなってくる
- ③ 鼻であしらいたくなくなってくる
- ④ 首をかしげたくなくなってくる
- ⑤ 腹をくくりたくなくなってくる

〔問5〕

先を行って<sup>3</sup>いる、とあるが、その説明として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① ことばが難しく、使用率が低くなっていること。
- ② 見かけや容姿の描写に使うのに優れていること。
- ③ 頭の回転がよくて、攻撃的でぶれないこと。
- ④ 語句の意味が拡張したり変化すること。
- ⑤ 国語辞典への採用率が高いこと。

〔問6〕

この文章の内容に合致するものとして最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① あることばが本来の意味とは違う意味で使われたとしても、その言語が生きているからであり、一概に否定することはできない。
- ② 慥然とした表情を不機嫌な表情と誤用する割合が多いが、国語辞典に注記されている例もあることからすると、このような使い方も正しいといえる。
- ③ 精悍とは、見かけや容姿の描写に使うのが一般的であり、気性や性格に使うことは現在では誤用である。
- ④ 他にあまり使われない漢字を用いたことばは、本来の意味を保持するブレーキがかかりにくく、必然的にことばの本来の意味が消えてしまうことになる。
- ⑤ 昔の日本語としては正しくとも、現代の日本語では通用しないことばの意味で使うことは、たとえ方言であったとしても、あまり勧められるものではない。

〔二〕 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。なお、問題作成の都合上、一部読みやすいよう本文に変更を加えた。また、各段落の冒頭にある〔1〕から〔9〕までの番号は段落番号を表している。

〔1〕 人生の最も大きな喜びの一つは、年来の希望が実現した時、長年の努力が実を結んだ時に得られる。私のような研究者にとっては、長い間、心の中で暖めていた着想・構想が、一つの具体的な理論体系の形にまとまった時、そしてそれから出てくる結論が実験によって確認された時に、最も大きな生きがいを感じられる。しかし、そういう瞬間は、私たちの長い研究生生活の間に、ごくまれにしか訪れない。私たちの人生のほとんど全部は、同じようなことのくりかえし、同じ平面の上でのゆきつもどりのために費やされてしまう。日々の努力によって、相当進化したつもりになっても、ふりかえってみると、結局、同じ平面の上の少し離れたところにきているに過ぎないことを、あまりにもしばしば発見する。一つの段階からもう一つの段階に飛びあがれるのは、それこそ天の羽衣がきてなるほどに、まれなことである。

〔2〕 そんなら人生の大半は、小さくいえば〔A〕、大きくいえば〔B〕とは無関係な、エネルギーの消費に終始しているのであろうか。決してそうではないように思われる。むしろムダに終わってしまったように見える努力のくりかえしの方が、たまにしか訪れない決定的瞬間より、ずっと深い大きな意味を持つ場合があるのではないか。ずっと若いころの私は「〔C〕」という考えに傾いていた。近年の私の考え方は、年とともにそれとは反対の方向に傾いてきた。それに伴って、真理の探求の道を歩いた多くの科学者に対する私の評価も、昔と今とで大分違ってきた。

〔3〕 ある科学者がカツキテキな発見をするとか、基本的に新しい着想から出発した、ある学説を提唱するとかした場合、私たちはもちろん、その学者を高く評価する。一言にしていえば、科学者をそのギョウセキ<sup>b</sup>によって評価する、それは確かにコウセイ<sup>c</sup>な態度である。どんなにその学者が苦心さんしたにせよ、そこから独創的なギョウセキ<sup>b</sup>が生まれなかつたら、多くの場合、私たちはその人の価値を認める正当な理由を持ち得ないであろう。それはそうに違いない。しかし同時にそれは、外から見た時の、やや離れて見た時の評価でもある。

〔4〕 ところで、私たちは自分以外の学者の大多数が、どういう苦勞をしているか、何に苦勞をしているかを知らない。自分の身近の少数の学者について、あるいは遠くにいる学者がある大きな成功を収めた場合についてだけ、それらの人々の苦心を知らされたり、関心を持つたりするのである。一人の人間の能力はきわめて限られている。自分以外の多数の人たちの苦勞に逐一関心を持っていたのでは、自分自身が失われてしまうであろう。それもその通りである。

〔5〕 しかし、それにもかかわらず、私は近来、外から見て、離れて見て、ある人の評価をするだけではないいけないということを、ますます強く感じるようになってきた。ある人が何の

ために努力しているか、何を苦勞しているかという面を、もっと重要視しなければならぬと思うようになってきた。天の羽衣がきてなでるといふ幸運は滅多に來ない。一度もそういう幸運に恵まれずに一生を終る人の方がずっと多いであろう。しかし、だからといって、そういう人の人生は無意味であったとは限らない。他人は知らなくても、その人自身は何かについて苦心をしつづけていたかも知れない。その「何か」が重要なことであつたかも知れない。「どんな風に」苦心したかが重要であつたかも知れない。

〔6〕絵をかく人は、絵になる以前のイメージを自分の中で暖め育ててきたであろう。彫刻家は素材を前にして、まだ現実化されない理想的な形態を思い浮かべているであろう。科学者の研究が一応完結するまでに、一編の論文となるまでに、どんなに長い間、生みの苦しみをつづけてきたのか。ついに絵にならない場合、ついに彫刻が完成しない場合、論文が出版されない場合、それがどんなに多いか。外から離れて見る者にはわからない。いわばそれは具象<sup>②</sup>以前の世界である。混沌<sup>こんとん</sup>から、ある明確な形態をもつた物が生まれるより以前の世界、生まれようとしている世界である。その人自身にとって、また深い関心をもつて、その人の世界を知ろうとする人にとって、それは無意味な世界ではない。

〔7〕科学文明の發達の結果として、情報伝達の方法が急激に変化してきた。新聞・ラジオ・テレビ等を通じて、私たちに与えられる情報が、ますます重要となり、私たちに圧倒的な影響を及ぼすようになってきた。それは一方では、遠く離れたところで起こつた出来事、自分と直接関係のない人々を、身近に感じさせる作用を持つている。他方ではしかし、情報を受けとる個人の特殊性を越えて、あらかじめ選択された情報を万人に同じように与える作用をも持つている。それは既に具象化されたものの中からの選択である。具象以前の世界は初めから問題になっていない。

〔8〕情報伝達だけではない。人間の頭腦の機能の一部までも機械が受けもつてくれるようになってきた。しかし、そういう機械もまた、既に具象化された知識を適当な記号の形に変えた時にだけ質問として受け入れてくれるのである。そしてその機械が与えてくれる答えもまた、具象化された知識に関するものだけである。

〔9〕人間は具象以前の世界を内蔵している。そしてそこから何か具象化されたものを取り出すとする。科学も芸術もそういう努力のあらわれである。いわば混沌に目鼻をつけようとする努力である。人生の意義の少なくとも一つは、ここに見出し得るのではなからうか。

（出典 湯川秀樹『具象以前』（日本近代随筆選 1 出会いの時）より）



〔問7〕

空欄 A、B に入る語句の組み合わせとして最も適切なものは、次のうちのどれか。

- |   |   |                  |   |            |
|---|---|------------------|---|------------|
| ① | A | 天の羽衣が出てくるようなおとぎ話 | B | 私たちの現実世界   |
| ② | A | 研究者が所属する大学や学会の発展 | B | 国家社会の発展    |
| ③ | A | 人生の喜びである年来の希望の実現 | B | 長年の努力の結実   |
| ④ | A | 心の中で暖めていた着想・構想   | B | 結論を確証させる実験 |
| ⑤ | A | その人の個人としての進歩・飛躍  | B | 人類の進歩・飛躍   |

〔問8〕

空欄 C に入る文として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 果報は寝て待て
- ② 象牙の塔にこもる
- ③ 百日の労苦は一日の成功のためにある
- ④ 百聞は一見にしかず
- ⑤ 若い時の苦勞は買つてでもせよ

〔問9〕

カ〔c〕ツキテキ、ギョウセキ〔c〕、コウセイ〔c〕、の傍線部に該当する漢字を含む熟語の組み合わせとして最も適切なものは、次のうちのどれか。

- |   |   |                               |   |                                |
|---|---|-------------------------------|---|--------------------------------|
| ① | a | カ <small>〔c〕</small> ツコとした信念。 | b | 土地のメンセ <small>〔c〕</small> キ。   |
|   | c | 地方コウムイン。                      |   |                                |
| ② | a | カ <small>〔c〕</small> クイツの。    | b | ボウセ <small>〔c〕</small> キ工場。    |
|   | c | コウシ <small>〔c〕</small> 混同。    |   |                                |
| ③ | a | シカク <small>〔c〕</small> 四面。    | b | ジツセ <small>〔c〕</small> キを報告する。 |
|   | c | 契約コウシン。                       |   |                                |
| ④ | a | カ <small>〔c〕</small> クシキ張る。   | b | セイセ <small>〔c〕</small> キが上がる。  |
|   | c | 御コウジヨウに感謝する。                  |   |                                |
| ⑤ | a | 漢字のカ <small>〔c〕</small> クスウ。  | b | 知識のチクセ <small>〔c〕</small> キ。   |
|   | c | コウキョウ事業。                      |   |                                |

〔問 10〕

外から見て、離れて見て、ある人の評価をするだけではいけないということを、ますます強く感じるようになってきたとあるが、その理由として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 一人の人間の能力はきわめて限られているが、複数の人間が集まれば、より大きなことを成し得るし、研究者の評価も容易となるから。
- ② 独創的な新しい学説を提唱できるかどうかは、個人の努力とは関係なく、個人の運に支配されていることを悟ったから。
- ③ 研究者が研究成果を出し得ていない場合でも、その前提としての努力や苦勞の過程を知ることが必要であるから。
- ④ たとえ研究者が研究成果を出し大成功したとしても、その結果に至る努力や苦勞をうかがい知ることはできないから。
- ⑤ 天の羽衣が来てなでるといふ幸運は滅多に來ず、学者の評価は、ほとんどがその努力や苦勞の量にのみ依拠するから。

〔問 11〕

具象以前<sup>②</sup>に当てはまるものとして最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 研究者の着想や構想
- ② 天の羽衣
- ③ 真理の探究
- ④ 絵や彫刻などの芸術作品
- ⑤ 新聞・ラジオ・テレビ等の情報伝達方法

〔問 12〕

本文の構造に関する評価として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 本文は、第1段落から第3段落までと第4段落以降に大きく分かれ、話題内容の転換を第4段落冒頭の「ところで」という語で明示している。
- ② 冒頭の第1・2段落で問題提起をし、第9段落の結論に至るまで、筆者の専門以外の分野の比喩も持ち出して、わかりやすく説得的に論じている。
- ③ 第3段落から第8段落まで具体例を並列的に並べているため、根拠が豊富で説得的であるといえるが、その中に話の展開の要素はなく、平板である。
- ④ 第1段落から第4段落までの内容を第5段落で「しかし」と逆転させ、筆者の主張を第5段落に集中させており、第6段落以降は付加したものに過ぎない。
- ⑤ 本文の題でもある「具象以前」は、終盤の第6段落で初めて登場するため、それまでは話の内容の予測がつかず、読者にスリリングな印象を与えている。

〔問13〕

この文章の内容に合致するものとして最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 日々の努力を重ねて、研究者は研究成果を、芸術家は芸術作品を生み出さなければならず、そこに人生のすべての意味がある。
- ② 人生の意義は、同じことのくりかえし、同じ平面でのゆきつもどりつという単調さに耐える力を養うことにある。
- ③ 努力を重ねても、幸運が付け加わらないと成果は出ないといえるから、努力以上に「天の羽衣がきてなでる」のを待つ楽観的な姿勢が重要である。
- ④ 明確な形あるものを作り出すための混沌状態での努力のくりかえしは、人生の意義の一つであるということができる。
- ⑤ 情報伝達の方法は進化したが、伝達された情報は他者に選択されたものであるから、仲間の苦労に関心を持ち、自分で確かめることが重要である。

③ 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。なお、問題作成の都合上、一部読みやすいよう本文に変更を加えた。

曼珠沙華まんじゅしゃわのことを、ヒガンバナともいう。Aのお彼岸のころに咲くからである。うちの庭のヒガンバナも、年々咲く花の数がふえて、今日はA十八日であるが、庭一面にヒガンバナの花ざかりである。今年の夏はどこも冷夏であるといわれ、温度も低く、また日照量もすくなくたはずだが、それにもかかわらず季節がくるとちゃんと花を咲かせるところは、いみじくもおらしい。<sup>①</sup>

二、三日来の好晴に浮かれてか、見ているとこのヒガンバナのお花畑へ、チョウが蜜を吸いに訪れてくるのである。なかでもアゲハチョウ科のチョウが多くて、ナミアゲハやクロアゲハがつぎからつぎへと訪れてくる。いまごろこんなにくさんのチョウがいたのか、とおもうぐらいである。昨日の午後にはそれらの中にまじって、一匹のモンキアゲハが、後翅こうしにある黄白色の大紋も鮮かに、花から花へと飛びまわっていた。私もこの京都に長らく住んで、若い頃には昆虫採集もやっていたことがあるけれど、この地でモンキアゲハを採集したことなど一度もなく、せいぜい一、二回目撃したことがあるにすぎないのである。だから、どこから迷いこんできたのかしらないが、わが家の庭のヒガンバナを訪れてきたモンキアゲハをみて、私は心なぐさめられるおもいがした。多分これと同じチョウであろう、今日の午前にもふたたびモンキアゲハの来訪を受けたのである。<sup>②</sup>

ところで考えてみると、ヒガンバナという植物は、花は咲いても実はならない。繁殖はもっぱら地下茎によつて行っているというのである。つまり花は咲いても、昆虫によつて受粉作用を助けてもらう必要がないのである。すると、ヒガンバナはいつたいなんのために蜜を用意して、アゲハチョウたちの訪れを誘っているのだろうか。あるいはなんの効用があつて、ヒガンバナはその花蜜を貯えるようになったのだろうか、とダーウィン流の進化論者なら首をひねるかもしれない。そしておそらく、ヒガンバナもかつては昆虫による受粉作用をおして果実をみのらせ、それによつて繁殖していたときがあつたにちがいない。ヒガンバナの花蜜はその頃の名残りを現わしたものであろう、というような推測をたてて、自己満足をはかったかもしれない。

しかしこれは、なんとという了簡のせまい自然観であるだろうか。ということは、こういう自然観のもとに眺められた動物や植物は、みなそれぞれの利益のために汲々きゅうきゅうとしていて、一緒に同じ土地でくらし、一緒になつて自然というものをつくっている、他の種類の動物や植物のことを、一切無視して顧みないものである、という前提に立っているから、了簡のせまい自然観だ、といったのである。自然はもつとのびのびとしていて余裕に満ち、その余裕をもつて他の種類の生物を、助けていると見られないものだろうか。ヒガンバナの花蜜もその余裕の一つであつて、自分たちのためには直接の役に立たなくても、それがアゲハチョウの好きな食物として役立っていたら、それでヒガンバナの花蜜の存在意義を認めたとにならないだろうか。

ア

イ

ウ

これが動物同士である場合には、食うものと食われるものとの関係が、いきおい血生臭いものとなつて、生存競争とか弱肉強食とかいうことを連想しがちであるけれども、それほどどこまでも個体の立場に焦点を合わそうとするから、そうなるのであって、すべての個体をその中に包みこんだ種の立場に、焦点を合わせかえたならば、種はすこしぐらいの個体が食われたつて、べつに痛痒つうようを感じていないようにみえる。

エ

オ

自然に生活している生物は、つねに余裕をもった生活をしている。そしてその余裕をオシゲもなく利用したいものに利用させている。われわれはそれをとかく無駄であるとか、浪費であるとかいうように解しがちであるけれども、自然はそんな我利我利がりがりもうちや者の寄り集まりではない。もしそんな我利我利者ばかりの寄り集まりだったら、このような美しい自然は、とうてい形成されなかつたであろう。ヒガンバナの花蜜は、その持ち主のためには何の役にも立たなくても、その花を訪ねてきたチョウのために役に立っておればそれでよいのだ、といつておいた。すると花蜜だけでなく、チョウを誘うのに役立つだけのものであるかもしれない。しかし、こういうことができるというのは、生活が保証され、生活に余裕があるからできるのであろう。そうおもつてもう一度自然を見直したならば、至るところにこのような自然のカジヨウエネルギーが、自然の芸術ともいえるものに姿を借りて、ハツロはつろしているのではなからうか。

(出典 今西錦司『自然学の提唱』より)

(注1) —後翅…昆虫の羽のうち、後部にある一对。

〔問 14〕

空欄 A

に当てはまる言葉として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 三月
- ② 四月
- ③ 七月
- ④ 八月
- ⑤ 九月

〔問 15〕

しおらしい<sup>1</sup>、とあるが、その意味として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 塩のようでほろ苦い。
- ② 慎み深く従順である。
- ③ はなばなしく鮮やかである。
- ④ みずぼらしく弱い。
- ⑤ わざとらしく憎らしい。

〔問 16〕

多分これと同じチョウであろう<sup>2</sup>、とあるが、筆者がこのように思った理由として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① ここ二、三日、「私」の住む京都では好晴に恵まれたから。
- ② 「私」の住む現在の京都ではチョウはほとんど見られなくなったから。
- ③ モンキアゲハの後翅は黄白色の大紋が鮮やかで特徴的であるから。
- ④ 「私」は若い頃には昆虫採集をしており、チョウに詳しいから。
- ⑤ モンキアゲハは「私」の住む京都では珍しいチョウであったから。

〔問 17〕

自然観<sup>3</sup>とあるが、筆者の自然観として最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① それぞれの動植物が独立して生活しており、自己完結的とみる自然観。
- ② それぞれの動植物が互いの生存のために張り合い、弱肉強食とみる自然観。
- ③ それぞれの動植物には余裕があり、それを他にも供するとみる自然観。
- ④ それぞれの動植物の機能は、自己存在のために意義があるとみる自然観。
- ⑤ それぞれの動植物は利己的であるものの、他の利用をも許すとみる自然観。

〔問 18〕

空欄 ア、イ、ウ、エ、オ に当てはまる文として最も適切なものは、次のうちのどれか。

(a) 小はダニや昆虫から大は哺乳類に至るまでのあらゆる動物に、食われ放題である。

(b) このように視点を変えて自然界を眺めると、たとえば植物などというものは、つねに余裕綽々しやくしやくとしている。

(c) 私はアフリカで、何万というウシカモシカやシマウマの移動を眼のまえにしたとき、こんなにたくさんいるのなら、その余裕で少々のライオンを養ってやっても、不都合は生ずるまい。

(d) これを植物の立場にたてば、それだけの動物を養っているといえないこともない。

(e) むしろそれによって養われているライオンの数が、すくなすぎはしないか、とおもったぐらいである。

- |   |       |       |       |       |       |
|---|-------|-------|-------|-------|-------|
| ① | ア (a) | イ (c) | ウ (e) | エ (d) | オ (b) |
| ② | ア (b) | イ (a) | ウ (d) | エ (c) | オ (e) |
| ③ | ア (b) | イ (d) | ウ (c) | エ (a) | オ (e) |
| ④ | ア (c) | イ (a) | ウ (e) | エ (d) | オ (b) |
| ⑤ | ア (c) | イ (e) | ウ (a) | エ (b) | オ (d) |

〔問 19〕

オシゲ、カジヨウ、ハツロ、の傍線部に該当する漢字を含む熟語の組み合わせとして最も適切なものは、次のうちのどれか。

- |   |   |              |   |                   |
|---|---|--------------|---|-------------------|
| ① | a | アイセキの情。      | b | 一を三で割るとジヨウウヨが生じる。 |
|   | c | 結婚ヒロウ宴。      |   |                   |
| ② | a | セキベツの言葉。     | b | ジヨウヤクを結ぶ。         |
|   | c | ガイロジュ。       |   |                   |
| ③ | a | 記念スタンプのオウイン。 | b | 残らずハクジヨウする。       |
|   | c | ロコツな表現。      |   |                   |
| ④ | a | ツウセキの念。      | b | 合理化でヨジヨウ人員が発生する。  |
|   | c | フロに入る。       |   |                   |
| ⑤ | a | 攻撃とボウギョ。     | b | 加減ジヨウジヨ。          |
|   | c | 悪事がロケンする。    |   |                   |

〔問 20〕

この文章の内容に合致するものとして最も適切なものは、次のうちのどれか。

- ① 私は若いころモンキアゲハを採集できなかつたことが原因で昆虫採集を断念したが、あこがれのモンキアゲハの再訪を受け、心なぐさめられた。
- ② ヒガンバナの繁殖は、もっぱら地下茎によるが、花蜜を用意してチョウたちを集めるのは、かつて昆虫の受粉作用を利用していた名残である。
- ③ 動物は植物と異なり、厳しい弱肉強食の世界で生存競争をしているが、生態系全体で見ると時にはバランスを保っている。
- ④ 動植物には、その持ち主のためには何の役に立たなくても、実は他の生物に役立つものがあるのだと、広い視野で自然を眺めたいものである。
- ⑤ 私は、ダーウィン流の進化論者に対して、ヒガンバナの花蜜は、ヒガンバナのためではなく、他の動植物のために役立っているといっておいた。



余  
白

余  
白



